



### 第4回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN) 終了報告

全国高校教育模擬国連大会は例年ですと8月に開催されます。この大会は事前の審査なしに参加できるのが特徴で、夏休み中に開催されることもあり北海道から九州まで全国から多くの高校生が集まります。ところが新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から昨年8月に予定されていた対面での大会は残念ながら中止となりました。しかし何とか大会を開催したいという多くの生徒諸君の熱意もあり、年を改めた1月10日(日)・11日(月祝)の両日に渡りオンラインで開催されました。全国63校から400名を超える高校生が5つの議場に分かれて「人種差別」という議題で画面越しに議論を交わしました。本校から参加した生徒諸君の内、3ペア6名が表彰されました。実行委員の一員として運営面で支えてくれた生徒を含めて原稿を寄せてもらいました。それぞれどんな学びがあったのかを感じ取っていただければ幸いです。



A議場(経験者)優秀賞  
池田君(左)・中村君(右)

高校2年4組 池田 隼(ミャンマー大使)

高2ということもあり、最後の会議と挑んだ中での優秀賞受賞となり、結果これまでで最も満足のいく会となりました。11月の全日会議に続いてのオンラインでの全国大会となり、前回得たオンラインならではのノウハウや反省を生かして、うまく立ち回れたのではと思います。私は、二日を通して途上国グループ内の議論の主導に徹しました。今回はまだ模擬国連に不慣れな人もいて、全ての国の意見を汲むのに苦労しましたが、何とか健全な話し合いに持っていくことができました。1年半を通したグローバル部によって、今まで決定的に欠けていた議論の力を身につけることができました。最後まで手を組んでくれた中村を始め、初心者の私に丁寧に様々教えてくれた部員や、お忙しい中活動をサポートしてくださった顧問の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

高校1年6組 中村 謙太 (ミャンマー大使)

今回のAJEMUNは例年の8月開催とは異なり1月に開催され、その上、オンラインでの開催となりました。コロナ禍という状況で開催に向けて尽力して下さった実行委員会並びに、実行委員、持田先輩に感謝したいと思います。

今回、ミャンマー大使として人種差別撲滅を話し合う会議に参加しました。ミャンマーは国内にロヒンギャなど西洋的にみれば人種差別の問題を抱えますが、ミャンマーとしては不法移民という立場をとっています。この対立を事前準備では警戒していたため、比較的合意を得やすい教育を重視し共通認識を作成することを目標にしていました。しかし、時間が足りず共通の文言として成果文書に乗せることは叶いませんでした。最終的には、ペアの会議行動が素晴らしかったため受賞することができたと思います。



A議場 (経験者) 優秀賞  
島村君 (左) ・及川君 (右)

高校2年1組 及川 遼也 (パキスタン大使)

受験勉強などもあり、今回で最後の模擬国連と決めて参加したAJEMUN。議題は人種差別問題でした。昨年多人種の国、アメリカに留学していたこともあり、個人的にとっても興味のある議題でした。ペアの島村君とは準備の段階から、この長年続く難しい問題をどうパキスタンの国益を確保しつつ解決していくかを、お互いの意見を出し合い、1か月間真剣に考えました。白熱した議論をしているうちに、3時間経ってしまっていたということなどもあり、準備段階で作成した政策のクオリティは相当高かったと思います。本番では、各国大使の意見をまとめた文書の提出が間に合わず、時間管理の甘さが課題として残りましたが、それでも、準備期間、会議本番でたくさんの意見交換をすることができ、この社会問題に対する興味をより深められたと思います。

高校1年5組 島村 昂寿 (パキスタン大使)

今回のAJEMUNは及川先輩に誘っていただいたの参加でした。僕は他の高1に比べて出場経験も少なく、出たとしても1人での出場が多いため、他学年の人と出るのも初めての経験でした。

まず国割が発表され、担当国がパキスタンであると分かった時、とにかく大変そうだな、と思いました。事前準備でどれだけリサーチ出来るかが鍵を握る模擬国連では、担当国の情報の入手しやすさも重要となります。そういった面でパキスタンは苦勞しそうな国でした。しかし、及川

先輩の英語力も駆使して、前日までに相当量のリサーチをすることが出来ました。

会議行動としても議場を動かす行動が出来たので良かったと思います。国益と国際益のバランスを考えながら、他のグループとのコンバイン(政策をグループ間ですり合わせて1つの決議案にすること)を行ったのですが、決議案を提出できなかったことだけが反省点です。

しかし、今回の会議は僕にあと1年残されている模擬国連人生に、大きな糧となる会議だったと思います。



C議場（経験者）優秀賞  
市川君（左）・加悦君（右）

高校1年8組 市川 義之助（北朝鮮大使）

模擬国連大会に参加する際、私は常に2つの目標をもって会議に臨んでいます。「他の大使の意見を取り入れること」そして「国益と国際益を両立するリーダーたること」です。

他国と協調しながら国際問題に対処していく場である国連として、自分の政策をただ説明するだけでなく、周囲の意見を柔軟にまとめることが重要です。とはいえ、妥協しすぎた結果、国際社会にあまり利益をもたらさない政策を作るのは本末転倒なので、リーダーとして国際益を生み出す政策への修正力が問われます。

今会議では、他の大使の利害をうまく調整し、コンセンサスに大きく貢献することができました。

しかし一方で、国益と国際益の両立達成は不十分でした。他の政策を利用することである程度カバーできたものの、振り返るともっと議論を深めることができたと思っています。国益と国際益をいかに両立していくか。その難しさを今会議で深く感じることができました。

高校1年2組 加悦 成晃（北朝鮮大使）

今回の模擬国連大会は、「人種差別の根絶に向けた議論」という議題で行われました。人種差別は、何百年も前から、今にかけて存在する大変デリケートな問題です。

今回私は、北朝鮮の大使として、全会一致を取り、優秀賞をいただきました。調査開始前は、「北朝鮮では、人種差別が行われているに違いない」と勝手な先入観をもっていたのですが、意外にも北朝鮮において人種差別は行われておらず、むしろ、ジョージ・フロイト氏に対して警察官からのレイシャルプロファイリングが問題となっていたアメリカを批判していることが分かり

ました。

このように、新たな発見を得られることが、私が模擬国連を楽しいと思う要因の一つです。当日の白熱した様子は、ペアで臨んだ市川に譲るとして、様々な方のご助力により、コロナ禍においてもオンラインという新しい形式で本大会に参加させていただけたことに心から感謝しています。



大会実行委員 フロントセクション  
持田君

高校2年1組 持田 隼人 (AJEMUN実行委員)

これまで培ってきた運営としての経験を、全国大会という大規模な場所で生かしたいと思い、昨年は大使として参加したAJEMUNに今年は運営としてかかわることにしました。自宅からの参加でしたので、なかなか全国大会の運営に携わっていると思えた瞬間は少なかったものの、初めてのオンライン開催ということで実行委員会も入念に準備を進めてきました。私自身も議題解説書 (BG)を執筆したり、当日は初心者向けの議場で「議長」という、議事進行を行う役割を受け持ちました。実は本番前後でパソコンがいきなり落ちてしまったり、通信がとても重くなったりと大変なことも多かったのですが、何とか務めを果たすことができました。

少し敷居が高いと思われがちな模擬国連ですが、ここ2、3年で初心者向けの会議も増えています。興味がありましたら、是非グローバル部への入部を検討してみてください。

決議案の一部 ↓



Model United Nations

MA/C.3/75/DR.2 (議場 A)



General Assembly

配布：一般  
2021年1月11日  
言語：日本語

第75会期  
第3委員会

Agenda item: 人種差別の撤廃 (Eliminating Racial Discrimination)

Sponsor: ※英語でアルファベット順に表記、提出国に下線

Armenia, Australia, Democratic Republic of Congo, Malaysia, Mexico, Mongolia, Myanmar, Nigeria, Republic of Korea, Russian Federation, South Africa., Sri Lanka, Vietnam

国連総会は、

人種、言語及び宗教によるあらゆる差別を撤廃し、多くの人種、民族が共生する社会を実現することは、全加盟国共通の目標であると確信し、